11

ズキンと響く重い股関節痛でも大幅に改善し手術も回避できた救われたと大反響のプラセンタ

傷んだ組織を修復し炎症を鎮める胎盤エキス「プラセンタ」で、股関節痛の改善例が相次ぎ評判

清水整形外科クリニック
院長
清水伸一（しみずしんいち）

●清水伸一先生が診療されている清水整形外科クリニックは、〒330-0063さいたま市浦和区元町二―二四―八 ☎〇四八―八八一―六七三八です。

▼▼手術を回避したいならプラセンタが最適

当院では、「他院でずっと治療を続けてきたのに、股関節痛が少しもよくならない」と訴えて、杖（つえ）をついたり足を引きずったりしながら、遠路はるばる相談に訪れる患者さんがあとを絶ちません。

そうした股関節痛で悩む人たちに、それまでどんな治療を受けてきたのかとたずねると、ほとんどの場合、鎮痛薬や湿布（しっぷ）薬、ブロック注射で痛みを和らげながら、温熱治療や電気治療によるいわゆるリハビリ（機能回復訓練）を行ってきたという答えが返ってきます。そして、最後の手段として手術をすすめられたため怖くなり、ほかの手立てを求めて当院を訪れたというのです。

股関節痛の手術は大変おおがかりなものです。最近でこそ技術が進歩して成功率も安全性も格段に高まっていますが、できることなら手術は免れたいというのが人情でしょう。また、手術で用いる人工股関節の耐用年数は一五～二〇年と短いため、再手術をさけるためにも初回の手術はできるだけ先延ばしにしたほうがいいと考えられます。

そこで、当院では、変形性股関節症をはじめとする股関節痛の治療に「プラセンタ」を取り入れ、一定の成果を上げています。プラセンタを用いると、手術が必要といわれたような股関節痛でも改善し、手術を回避できる例が少なくないのです。

▼▼細胞を次々に生み出す貴重な天然成分の宝庫

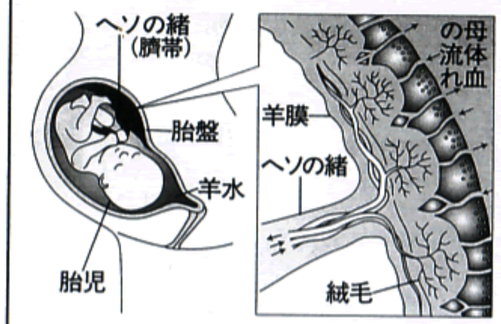
プラセンタとは、哺乳（ほにゅう）動物の「胎盤」を意味し、一般に人間やブタの胎盤から抽出されたエキスのことを指します。ちなみに注射薬には人間の胎盤エキスが使われ、内服薬や栄養補助食品には主にブタから抽出した胎盤エキスが用いられています。

胎盤は、人間の場合でいえば〇・一ミリしかないたった一個の受精卵を、わずか一〇カ月間に、六〇兆個もの細胞を持つ約三キロの胎児に育て上げるという驚異的な働きを見せます。この胎盤の優れた働きを利用しようというのが、プラセンタ療法です。

胎盤には、化学合成ではなかなか作り出せないような多種多様な天然の栄養成分が極めて豊富に含まれています。たんぱく質・脂質・糖質の三大栄養素はもとより、アミノ酸・ビタミン・ミネラル（無機栄養素）、酵素（体内の化学反応を助ける物質）も驚くほど豊富です。

そのほか、再生医療の分野で注目されている成長因子も数多く含まれているため、プラセンタには、細胞の増殖を促して傷んだ組織を修復したり、炎症を鎮めたり、血行をよくしたりする数々の薬理作用が認められています。これらの薬理作用が相乗的に働くことで股関節が若さや柔軟性を取り戻し、股関節痛の改善につながるのだろうと私は考えています。

プラセンタとは



プラセンタとは、哺乳動物の胎盤、またはそこから抽出されたエキスのこと。胎盤は、胎児と母親を結んで胎児の生命を維持し、成長を促す臓器。

▼▼大半の人が改善効果を実感

実際に私のクリニックでは、この二年間で三二人（男性二人、女性三〇人）の股関節痛の患者さんに、プラセンタを患部に注射するプラセンタ療法を受けてもらっています。日本整形外科学会の判定基準による病状別の内訳は、軽度が四人、中等度が二二人、重度が六人です。

まず、軽度の患者さんでは、プラセンタ注射を受けた四人中三人（七五％）に痛みの顕著な軽減が確認され、プラセンタ療法に対する本人の満足度は平均八〇％に達しました。

これらの中には、鎮痛薬やリハビリが一切不要になった人、痛みが完全に消えて買い物や仕事に支障がなくなり喜んでいる人がいます。

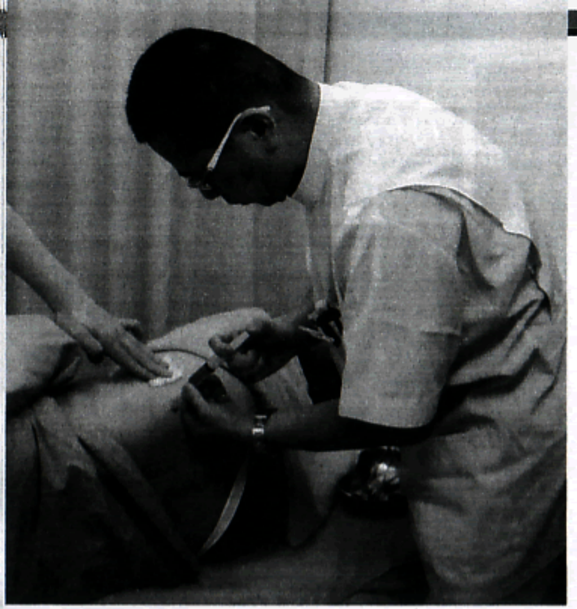
中等度の患者さんでは、二二人中一三人（約五九％）で股関節痛の改善が認められました。本人の満足度は平均六〇％程度でした。

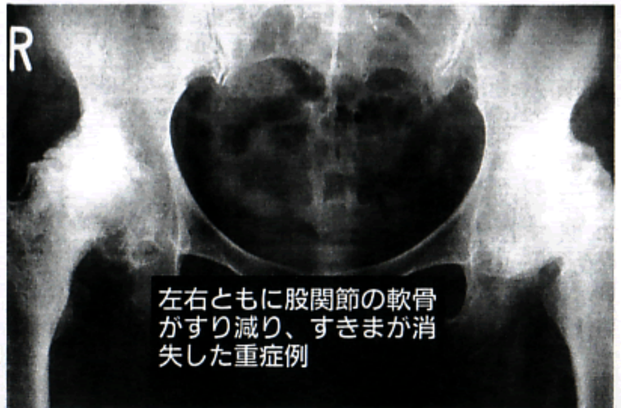
これらの患者さんのほとんどは、歩くたびに痛みが現れるので杖が必要でしたが、プラセンタ療法を受けたら、杖なしで一〇～三〇分歩けるようになった人や、床やソファに座って自分で靴下をはけるようになった人もいます。

重度の患者さんでは、一三人中六人（約四六％）で軽度の改善が確認されました。本人の満足度は平均五〇％ほどとあまり高くありませんでしたが、これはプラセンタを単独で用いた場合の数字です。プラセンタ療法と並行して、靴底に足底板を敷く体重過重調整法や、股関節周囲のストレッチ（伸ばすこと）、生活習慣の改善を組み合わせれば、改善率も満足度もずっと高くなるものと考えられます。

重症例の人は、歩けない場合がほとんどです。しかし、プラセンタ療法を続けたら、杖をつきながら休み休みではあるものの歩行距離が延びた人や、睡眠中に途中で目が覚めることがなくなった人もいます。

以上述べてきたように、プラセンタは、従来の治療法ではなかなか改善しにくい難治の股関節痛でも、驚くような改善効果を示すことが少なからずあります。また、プラセンタ療法は、できるだけ早い段階から受けたほうが大きな改善効果が期待できるようなので、股関節痛が気になりはじめた人は、治療を検討してみるといいでしょう。


プラセンタ注射を行う清水先生



左右ともに股関節の軟骨がすり減り、すきまが消失した重症例

右のX線写真のような変形性股関節症の重症例でも、症状の改善する例があるという